

黄砂対策植生回復実証調査事業（継続）

【平成19年度概算決定額 14,383（15,453）千円】

事業のポイント

黄砂発生源地域において、パターンごとの植生回復の程度を測定し、黄砂抑制効果が高い植生回復パターンについて調査し、植生回復技術の指針を作成します。

（事業の背景等）

- ・ 近年、日本各地で黄砂が観測されており、黄砂問題が著しく深刻化している。
- ・ 黄砂の発生源は、中国の黄土高原、モンゴル・中国にまたがるゴビ砂漠等であり、植生の消失等が人口増加等によって拡大しており、重大な環境問題として受けとめられている。
- ・ 森林を含む植生回復は黄砂問題の根本的解決策として重要。

政策目標

事業対象国の持続可能な森林経営に同事業がどれだけ寄与したかについて最高度の評価を獲得。

（5段階評価のアンケート調査を実施し、事業対象国から最高点の評価値を得る。）

<内容>

1. 植生回復の実証調査

黄砂発生源地域において、複数の植生回復パターンを設定し、パターンごとに黄砂発生の程度を測定することにより、どの植生回復パターンが黄砂抑制効果が高いかを実証的に調査します。

2. 植生回復の技術指針の作成

実証調査結果を基に、黄砂発生源地域に適用し得る植生回復の技術指針を作成します。

<補助率>

定額

<事業実施主体>

民間団体

<事業実施期間>

平成16年度～20年度（5年間）

[担当課：林野庁計画課]